

登録販売者試験部会の開催状況について

1 令和6年度試験部会

部会委員

所 属	氏 名	備 考
秋田県病院薬剤師会	平泉 達哉	委員（部会長）
秋田県薬剤師会	安田 哲弘	委員
秋田県薬剤師会	嶋田 逸大	委員
秋田県健康環境センター	松渕 亜希子	専門委員
秋田地域振興局福祉環境部	川口 幸	専門委員

(1) 方 法

書面開催（意見聴取：令和6年6月24日（月）まで）

(2) 内 容

- ア 令和5年度登録販売者試験の実施状況等について
- イ 令和6年度登録販売者試験実施計画について
- ウ 令和6年度登録販売者試験問題（案）の精査について

2 令和6年度試験

(1) 日 時 令和6年8月28日（水）

午前10時30分から午後3時55分まで

(2) 場 所 ANA クラウンプラザホテル秋田

(3) 結果等

ア 出願者数、受験者数及び合格者数

実施年度	出願者	受験者	欠席者	合格者	合格率
令和6年度	392名	364名	28名	182名	50.0%
令和5年度	378名	353名	25名	140名	39.7%

イ 各試験項目得点状況

	平均点	最高点	最低点	配点
試験全体	81.7	117	35	120
医薬品に共通する特性と基本的な知識	16.9	20	8	20
主な医薬品とその作用	24.4	40	7	40
人体の働きと医薬品	13.8	20	3	20
薬事に関する法規と制度	13.8	20	3	20
医薬品の適正使用と安全対策	12.8	19	2	20

ウ 合格基準

総得点が7割以上かつ各項目の得点が4割以上

エ 採点にあたって考慮した問題

なし

オ 合格発表日 令和6年10月1日（火）

毒物劇物取扱者試験部会の開催状況について

1 令和6年度試験

- (1) 日 時 令和6年9月4日(水) 午後1時30分から午後3時30分まで
 (2) 場 所 ANAクラウンプラザホテル秋田
 (3) 結果等

ア 出願者数、受験者数及び合格者数

	一般	農業用品目	特定品目	合 計
出願者数	89 名	30 名	1 名	120 名
受験者数	83 名	28 名	1 名	112 名
合格者数	16 名	1 名	0 名	17 名
合格率	19.3%	3.6%	0.0%	15.2%

イ 試験科目

科 目	出題数	満 点
1. 毒物及び劇物に関する法規	20 問	20 点
2. 基礎化学	20 問	20 点
3. 毒物及び劇物の取扱方法等	10 問	20 点 (※)
4. 実地試験	10 問	
合 計	60 問	60 点

※この2科目については、合わせて一つの科目とする。

ウ 合格基準

総得点の6割(36点)以上、かつ、各科目(試験科目3及び4については、合わせて一つの科目とする)の各得点が4割(8点)以上の者を合格者とする。

エ 合格発表日 令和6年10月8日(火)

2 令和6年度試験部会

部会委員

所 属	役職	氏 名	備 考
秋田県薬剤師会	試験検査センター/医薬 品情報センター主任	嶋田 逸大	委員 (部会長)
総合教育センター	指導主事	田口 峰子	専門委員
健康環境センター	主任研究員	古井 真理子	専門委員
秋田地域振興局福祉環境部	主査	今野 亮	専門委員

(1) 方 法

書面開催(意見聴取: 令和6年12月19日から令和7年1月8日まで)

(2) 内 容

ア 令和6年度試験実施状況及び令和7年度試験実施計画について

イ 令和7年度実施試験の秋田県担当問題(案)の精査について

薬局機能強化部会の開催状況について

1 令和6年度薬局機能強化部会

(1) 日 時 令和7年2月27日(木) 18:00～19:00

(2) 開催方法 ウェブ開催

(3) 部会委員

所 属	氏 名	備 考
秋田県医師会	田村 広美	委員
秋田県医師会	伊藤 良正	委員
秋田県薬剤師会	安田 哲弘	委員(部会長)
秋田県病院薬剤師会	平泉 達哉	委員
秋田県地域包括・在宅介護支援センター協議会	長谷川 淑子	専門委員
秋田市保健所	庄司 学	専門委員

(4) 内 容

ア 報告事項

●薬局機能に係る今後の法改正について

今後、医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律が改正となる予定。薬局機能に係る改正については、「健康サポート薬局の認定制度化及び名称変更(健康増進支援薬局)」「薬局機能情報提供制度における報告先の変更(薬局開設の許可権者と同じ)」等について法改正がなされる予定となっている。

●医療 DX について(電子処方箋の導入状況等)

令和7年1月26日現在、秋田県の処方箋導入率は病院7.8%、医科診療所14.2%、歯科診療所2.6%、薬局77.3%、全ての施設32.1%と、各施設で全国平均を上回っており、全体の導入率は全国で3番目に良い数値となっている。今年度は当県において、医療機関等に対し、国の補助に上乗せをする補助事業を実施している。

また、来年度の国の電子処方箋普及対策については、導入されていない医療機関等に対するフォローアップを行うことも盛り込まれた説明がなされており、現在掲げられている「令和7年3月までに概ね全国の医療機関及び薬局に普及させる」目標については、新たに令和7年夏を目処に見直しを行うと示された。

●認定薬局制度の認定状況について

地域連携薬局数(令和6年12月31日現在)

23薬局

<地域ごとの内訳>

保健所管轄地域	認定薬局数	保健所管轄地域	認定薬局数
大館保健所	6	北秋田保健所	0
能代保健所	4	秋田市・中央保健所	3(内秋田市2)
由利本荘保健所	2	大仙保健所	4
横手保健所	1	湯沢保健所	3

専門医療機関連携薬局

認定なし

- ・専門医療機関連携薬局の条件のひとつである、がん専門薬剤師の配置が大きなハードルとなっている。

イ 協議事項

● 認定薬局の現状と課題について

- ・認定薬局の数が増えないことについては、様々理由はあるものの、例えば立地や、近隣の医療機関の標榜科、在宅医療であれば、医師の指示がなければ要件を満たすことができないなど、薬局だけではどうにもならない部分がある。
- ・薬局だけではどうにもならない部分については、その地域の医師を巻き込んで地域の薬局を育てていく、応援していくような動きや流れを作る工夫が必要なのではないか。
- ・認定薬局の取得は、薬局側にとってやはりメリットが少ない。まわりから評価されることもあるだろうが、現実問題としてはお金にならないことで、なかなか意欲がわいてこない、一步踏み出せない要因になっていると思う。
- ・健康サポート薬局の名称が変わるが、地域連携薬局と機能が重なる部分がある。認定薬局を増やすと言うよりは健康サポート薬局が増えていき、地域包括ケアシステムで活躍してくれる先生が増えてくれることが現実的ではないか。
- ・仙北市では、高齢者が増えているが往診の数は減っている。現時点で在宅医療の数は増えているのか。
- ・専門医療機関連携薬局については、専門薬剤師を増やせば、必然的に認定薬局も増えると思っていたが、それ以外の理由もあるのだと感じているため、そういった所のフォローも必要だと考えている。
- ・専門医療機関連携薬局については、専門研修を受講した人は13名と聞いている。その中で（外来がん治療）専門薬剤師を取得した方が5名であり、約半数が研修を終了しても資格を取っていないことになる。
- ・専門医療機関連携薬局について、研修を受講しても、試験に通らなかった等があるのだと思う。試験を受けて認定を取得するまでの支援も必要なのではないか。